

クリーンストレッチャー TI-10

取扱説明書

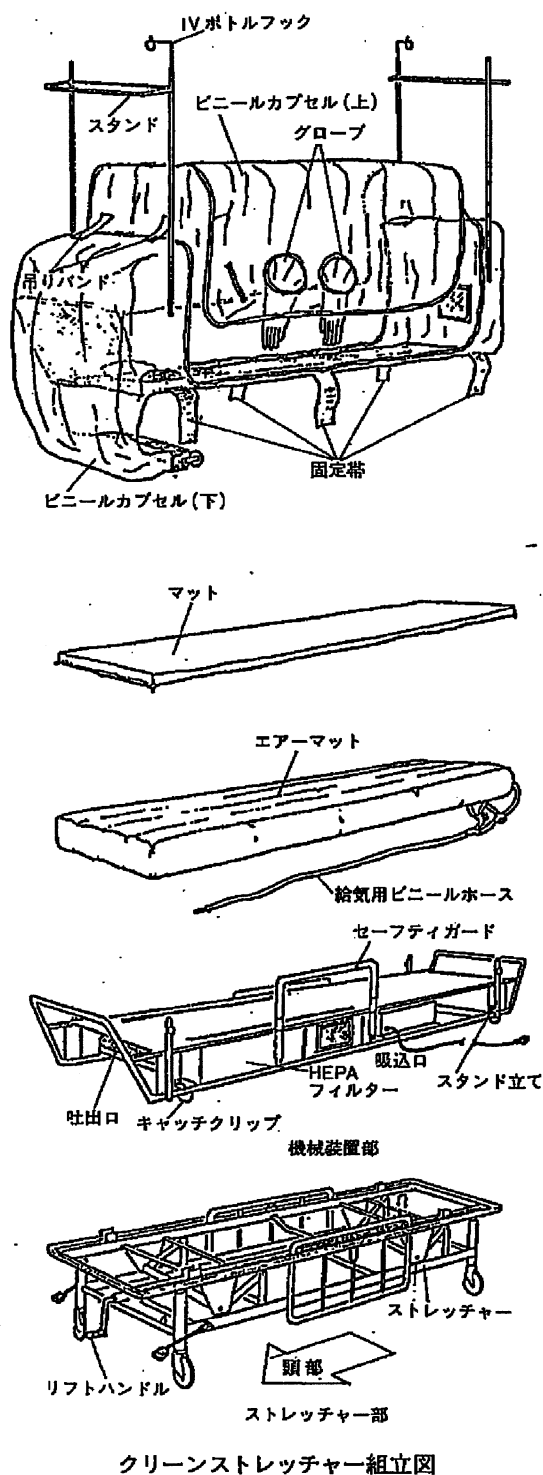
株式会社 アイソテック

目 次

§ 1	組立て順序	1
§ 2	運転・操作	2
§ 3	院内での代表的な移動フロー	4
§ 4	注 意 事 項	8
§ 5	手 入 れ	8

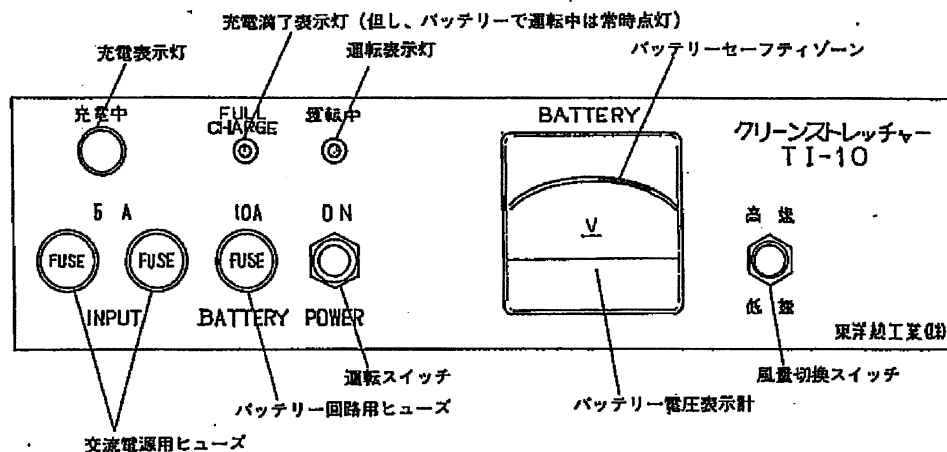
§1 組み立て順序

- ① ストレッチャーを4輪固定の状態にします。
(P3 参照)
- ② ストレッチャーに機械装置部を載せ四隅のキャッチクリップでしっかりと固定します。
- ③ エアーマットとマットを広げます。
- ④ 2組のスタンドをスタンド立てに入れ、固定します。
- ⑤ スタンドにIVフックを差し込みます。
- ⑥ ビニールカプセル(下部)をマットの上に広げ、固定帯で機械装置部に固定します。
- ⑦ ビニールカプセル(下部)の先端をHEPAフィルター吐出口に差し込み、キャッチクリップでしっかりと固定します。
- ⑧ 吊りバンドをスタンドの横バー外側に巻きつけ、ビニールカプセルを吊り上げます。
- ⑨ ビニールカプセル(上部)と(下部)をファスナーでつなぎます。



附属品	予備品
一般担架	5A ヒューズ 2個
防塵カバー	10A ヒューズ 1個

§ 2 運転・操作



操作パネル

◀運転に入る前に▶

バッテリー回路用ヒューズ (10A) をヒューズホルダーの中に入れて下さい。

(このヒューズは、電源装置の正面にビニール袋に入って止めてあります。)

ビニールカプセルは全周ファスナーを閉じて下さい。

◀運転順序▶

- ① 運転スイッチ“ON”とします。

運転表示灯が点灯し、送風が開始されビニールカプセルがしだいにふくらんできます。

- ② 風量切換スイッチ“高 ↔ 低”を選択して下さい。

ファスナーを開けて行なう作業時は高速運転とし、ファスナーを閉じている時は低速運転として下さい。

交 流 電 源 運 転	バ ッ テ リ ー 運 転
交流 100 V コンセントに電源プラグを差し込むと、自動的に交流電源運転状態となります。バッテリーの寿命をより長く保つ為に、なるべくコンセントを利用して下さい。	移動、あるいは交流 100 V コンセントが利用できない場所では、内蔵バッテリーによる運転が可能です。最高 6 時間までのバッテリーによる連続運転が可能です。

◀各部操作法▶

ハンドリフト

リフトハンドルにより、任意の高さに調節することができます。
0～30 cmの高さ

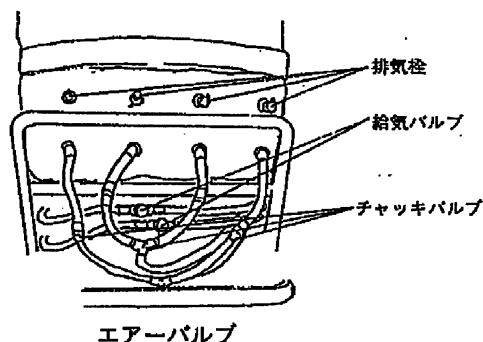
エアーマット

患者を金属体（機械装置部）より 20 cm 浮かすことができます。

★エアの入れ方

圧縮空気源（0.5 kg/cm²～4.0 kg/cm² 医療ガスアウトレット、又はポンプ）を御用意下さい。圧縮空気とエアーマット空気取入口を附属ビニールホースで接続します。セーフティガードは起こしておいて下さい。

給気バルブを押している間は、エアーマットに空気が入ります。ふくらみ具合を手で確かめながら、外側気室より入れてゆきます。

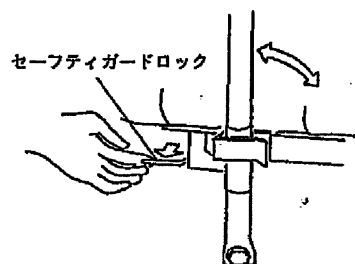


★エアの抜き方

エアーマットの排気栓（4ヶ所）を引き抜くと、空気が抜け出てゆきます。内側気室より抜いて下さい。

セーフティガード

取手を真上に持ち上げ、引き起こして下さい。起き上がったところでロックがかかります。角パイプ下のレバーを手前に引くとロックがはずれ、倒すことができます。



セーフティガードロック

トータルロックキャスター

ペダルを踏み込むと4輪が同時に固定され、車輪の首振りまで完全にとまります。ペダルを水平にすると4輪共フリーになります。ペダルを押し上げると4輪のうち1輪だけが直進の方向に固定されて、スムーズな走行が出来ます。



トータルロックキャスター

§ 3 院内での代表的な移動フロー

操 作 順 序		風速選択	電 源
(A) 滅菌消毒	ファスナー開 消毒剤噴霧 ファスナー閉 放 置 無菌室へ移動	高速運転	コンセント
(B) 乗り込み	キャスターロック 出入口消毒 ファスナー開 乗り込み ファスナー閉	高速運転	バッテリー
(C) 移 動	リフトを下げる セーフティガードは起こしておく	低速運転	バッテリー
(D) 処置治療室	間接接触（ファスナー閉）の場合 直接接触（ファスナー開）の場合	低速運転 高速運転	コンセント 又 は バッテリー
(C) 移 動	リフトを下げる セーフティガードは起こしておく	低速運転	バッテリー
(E) 無菌室へ戻って	キャスターロック 出入口消毒 ファスナー開 降 車 ファスナー閉	高速運転	バッテリー
(F) 格 納	運転スイッチOFF スタンドをはずしてカプセルをたたむ 防塵カバーをかけておく	—	—
(G) 充 電	運転スイッチOFF 充電満了表示灯が点灯するまで、充電を続ける	—	コンセント

(A) 滅菌消毒

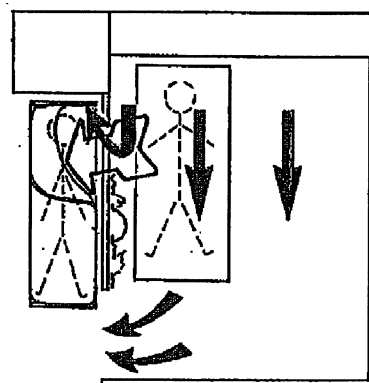
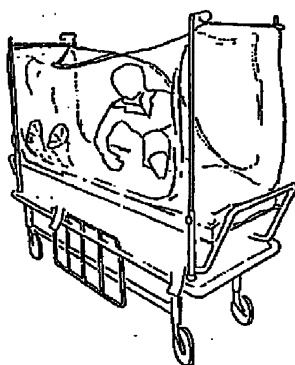
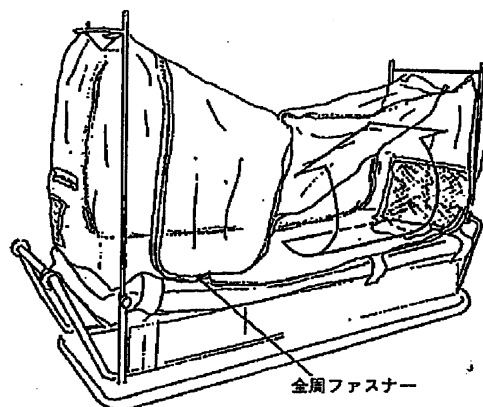
ビニールカプセルの内面及び外面を薬液消毒して下さい。

- ① 高速運転とします。
- ② 滅菌手袋をはめて、消毒剤（0.5%ヒビテンアルコール等）をカプセル内面全体にゆきわたる様に噴霧します。
- ③ 滅菌シートをカプセル内で開包し敷き込みます。この時ファスナーの開口部は出来るだけ小さくして、作業して下さい。
- ④ ファスナーを完全に閉じ、カプセル内面の消毒剤が乾燥するのを待ち、無菌室へ移動します。
- ⑤ 無菌室入口で、患者が乗り込む際に触れるセーフティガードやカプセル外面を消毒剤で清拭します。

(B) 乗り込み

- ① ひきつづき高速運転とします。
- ② クリーンストレッチャーを無菌室の清浄空気流域へ移動させて下さい。
- ③ 介助者は気流の下流側に位置しながら、患者が乗り込めるだけの開口を作るべく、ビニールカプセルのファスナーを開け、カプセル（上部）を上へひきあげます。
- ④ 患者は上流側より自力で乗り込みます。
(介助が必要な場合には、介助者は無菌ガウンを着用して下さい。)
- ⑤ 患者の乗り込み後、ファスナーを完全に閉じ、低速運転に切換えて下さい。

※ あらかじめ、必要物品を入れておいて下さい。
又、点滴びんはIVファスナーから外へ出し、IVフックへ取りつけます。



患者の乗り込み

(C) 移 動

移動する際は、ストレッチャーのリフトを最も下げた状態とし、セーフティガードを必ず引き起こしておいて下さい。

(D) 処置室・治療室

処置室や治療室（移動先の部屋）では、出来るだけ交流電源運転として下さい。

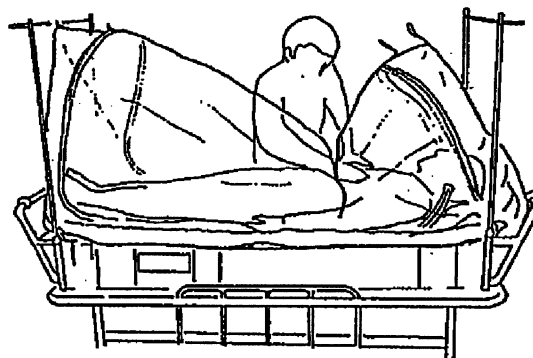
★ リフトハンドル、エアーマットによりベット部分の高さの調節が可能です。

(78.5 cm ~ 127.5 cm)

★ 全身放射線照射を行う場合は、エアーマットをふくらませ、セーフティガードは倒しておきます。

★ グローブを介した間接接触は、低速運転のままで行えます。又、低速運転下では、カプセルを押しつぶすことが出来、ビニール越しに患者に接触、介助することが出来ます。

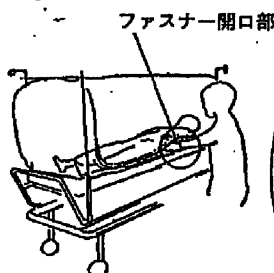
★ X線フィルムをビニールカプセルとマットの間に差し込み、上部からX線撮影することが出来ます。



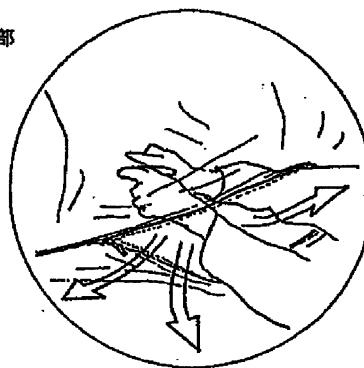
ビニール越しの間接接触

★ 超音波診断や直接接触を行う際は高速運転とし、ファスナーの開口は最小限として下さい。物の出し入れも同様です。

★ クリーンストレッチャーは、ストレッチャー部と無菌カプセル部とが、運転状態のまま分離できます。



直接接触



(E) 無菌室へ戻って

① 無菌室入口で、患者が降りる際に触れる、セーフティガードやカプセル外面を消毒剤で清拭します。

② 高速運転とします。

③ 乗り込む時と同様の注意をしながら、患者は清浄空気に向ってストレッチャーから降ります。

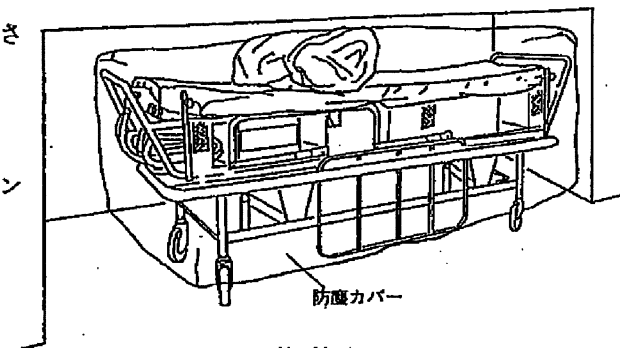
(F) 格 納

格納する前に必ず充電作業を行って下さい。

使用しない際は、防塵カバーをかけておいて下さい。

運転スイッチは必ず切って下さい。

スタンドをはずして、カプセルをたたむと、コンパクトに格納することが出来ます。



格 納 例

(G) 内蔵バッテリーの充電

- ① 運転スイッチは“OFF”として下さい。
- ② 交流100Vコンセントに電源プラグを差し込みます。
充電表示灯が点灯し、充電が開始されます。
- ③ 満了表示灯が点灯した時点で、80%充電を示しています（通常約8時間で満了となります）。
以後100%完了には、約48時間程度を要します。

(H) そ の 他

院内での使用ばかりでなく、屋外での利用も充分考慮された製品です。

ストレッチャーに載せたまま散策したり、他病院施設への移動の為、ストレッチャー部から分離して車に載せる事も出来ます。内蔵バッテリーによる低風速連続運転時間は6時間です。

§ 4 注意事項

- ★ 患者の乗り降り時には、ストレッチャーのキャスターのストッパーを必ずかけて下さい。
- ★ エアーマットをふくらます時は、患者をマットの中心に位置させ、セーフティガードを起こした後、外側気室から給気して下さい。又、空気を抜く時は内側気室より排気して下さい。
エアーマットのふくらませ方が足りない時は、患者が不安定となります。
- ★ 内蔵バッテリーは、電圧が下がり過放電状態（11V以下）になると、警報音を発し充電をうながします。過放電状態が続くと、バッテリーの寿命を短くする原因となりますので、このような状態になる前に、こまめに充電作業を行う様にして下さい。

§ 5 手入れ

- ★ 吸込口プレフィルター及び排気口、吹出口は適時、取りはずして洗浄して下さい。
(周囲マジックテープ止め)
- ★ ビニールカプセルの汚れをとる場合は、全周ファスナーをはずして、上・下分離し、清潔な布で清拭して下さい。
- ★ グローブ、ビニールカプセル、HEPA フィルター、エアーマット、マットは容易に分離でき新品との交換が可能です。
- ★ 内蔵バッテリーの交換は、下記同等品を用意して下さい。
(日本電池 GS PE15-12A 小型シールドバッテリー 2個)
バッテリーでの運転可能時間が極端に減少してきた場合には、バッテリーの交換が必要です。